# 先生の準備チェックリスト

審議まとめ（2026年10月5日）の方向性から、今からできる準備。

## 小学校の英語

- [ ] **【今すぐ】**自分の単元を、「コミュニケーション活動」（目的・場面・状況に応じて理解・表現・伝え合う）と「それを支える活動」（語彙や文法を理解し使う）に分けて見直し、両者を行き来する流れになっているか確かめる。
- [ ] **【今すぐ】**単元の初めに「コミュニケーションを行う目的・場面・状況」を具体的に設定して生徒と共有する（例：日本に来たことがない海外の生徒に、住んでいる町の食べ物を紹介する）。
- [ ] **【今すぐ】**同じ表現でも場面によって意図が変わることを意識させる（例：Can you 〜? が質問にも依頼にも誘いにもなる）。似た意味の既習表現を整理して使えるようにする。
- [ ] **【今すぐ】**導入したばかりの語彙や文法をすぐ話せる・書けることを求めず、聞く・読むで理解する段階から話す・書く段階へ進める計画にする。
- [ ] **【今すぐ】**自分のこと・地域のこと・日本のこと・自分の意見を伝える活動を単元に入れる（例：地域のおすすめの場所を留学生に紹介、校則について意見を発表）。
- [ ] **【今すぐ】**家庭学習の課題を見直し、単純な英作文などAI翻訳を出せば済むような課題になっていないか確かめる。
- [ ] **【今すぐ】**授業でAIを使う場合は、例文の生成などに使っても出力を鵜呑みにさせず吟味させ、最後は人間同士のやり取りにつなげる設計にする。使う前に、学校・教育委員会が認めた環境かどうか、利用規約・年齢制限・必要な保護者の同意を確かめ、氏名や写真などの個人情報は入力させない。
- [ ] **【今すぐ】**英語の学び方（学習方略）を授業で指導し、生徒が家庭学習でも自分で学習を調整できるようにする。高3の6割が学習方法が分からないという調査結果がある。
- [ ] **【今すぐ】**外国語科で日本語と英語の語順の違いに気付かせる場面をつくり、中学校の文法指導につなげる。文を書き写すときは語と語の区切りに注意させる。
- [ ] **【今すぐ】**「書くこと」は、文字を丁寧に書く→語句を書き写す→語句を選んで書き写す→例を参考に書く、と段階を踏んで指導する。一文の書き写しで学校間に大きな差があるという課題がある。
- [ ] **【今すぐ】**外国語活動でも文字に慣れ親しむ活動を取り入れ、国語のローマ字学習などと関連付けて、5年からの読む・書くへ円滑につなぐ。
- [ ] **【全面実施まで】**評価は5つの領域を「内容のまとまり」とし、単元の目標をそのまま評価規準にする形に移る方向なので、国の評価規準例が出たら単元計画の作り方を合わせる。
- [ ] **【今すぐ】**パフォーマンステストで知・技と思・判・表を同じ課題で見取る形を試す（引き続き可能とされている）。
- [ ] **【今すぐ】**ALTやオンラインでの海外校との交流など、人間同士のリアルなコミュニケーションの機会を単元に組み込む。
- [ ] **【今すぐ】**帰国生徒や外国につながる児童生徒の外国語の力を、授業で生かせるよう配慮する。
- [ ] **【全面実施まで】**国が行う大規模オンライン研修や、動画・資料、表現集が出たら活用する。

## 中学校の英語

- [ ] **【今すぐ】**自分の単元を、「コミュニケーション活動」（目的・場面・状況に応じて理解・表現・伝え合う）と「それを支える活動」（語彙や文法を理解し使う）に分けて見直し、両者を行き来する流れになっているか確かめる。
- [ ] **【今すぐ】**単元の初めに「コミュニケーションを行う目的・場面・状況」を具体的に設定して生徒と共有する（例：日本に来たことがない海外の生徒に、住んでいる町の食べ物を紹介する）。
- [ ] **【今すぐ】**同じ表現でも場面によって意図が変わることを意識させる（例：Can you 〜? が質問にも依頼にも誘いにもなる）。似た意味の既習表現を整理して使えるようにする。
- [ ] **【今すぐ】**導入したばかりの語彙や文法をすぐ話せる・書けることを求めず、聞く・読むで理解する段階から話す・書く段階へ進める計画にする。
- [ ] **【今すぐ】**自分のこと・地域のこと・日本のこと・自分の意見を伝える活動を単元に入れる（例：地域のおすすめの場所を留学生に紹介、校則について意見を発表）。
- [ ] **【今すぐ】**家庭学習の課題を見直し、単純な英作文などAI翻訳を出せば済むような課題になっていないか確かめる。
- [ ] **【今すぐ】**授業でAIを使う場合は、例文の生成などに使っても出力を鵜呑みにさせず吟味させ、最後は人間同士のやり取りにつなげる設計にする。使う前に、学校・教育委員会が認めた環境かどうか、利用規約・年齢制限・必要な保護者の同意を確かめ、氏名や写真などの個人情報は入力させない。
- [ ] **【今すぐ】**英語の学び方（学習方略）を授業で指導し、生徒が家庭学習でも自分で学習を調整できるようにする。高3の6割が学習方法が分からないという調査結果がある。
- [ ] **【今すぐ】**小学校で扱っている話題・表現・指導方法を確かめる（小学校の指導内容を把握していない中学校教師が多いという調査結果がある）。
- [ ] **【今すぐ】**中1の初めは音声中心の活動を重視し、小学校で扱った話題や表現を繰り返す。語順を意識して書くこと、発音と綴りの結び付けを3年間丁寧に指導する。
- [ ] **【今すぐ】**教科書の「社会的な話題」を扱うときは、健康的な食生活やスクリーンタイムなど、生徒が自分と関連付けられる身近な切り口を工夫する。
- [ ] **【全面実施まで】**評価は5つの領域を「内容のまとまり」とし、単元の目標をそのまま評価規準にする形に移る方向なので、国の評価規準例が出たら単元計画の作り方を合わせる。
- [ ] **【今すぐ】**パフォーマンステストで知・技と思・判・表を同じ課題で見取る形を試す（引き続き可能とされている）。
- [ ] **【今すぐ】**ALTやオンラインでの海外校との交流など、人間同士のリアルなコミュニケーションの機会を単元に組み込む。
- [ ] **【今すぐ】**帰国生徒や外国につながる児童生徒の外国語の力を、授業で生かせるよう配慮する。
- [ ] **【全面実施まで】**国が行う大規模オンライン研修や、動画・資料、表現集が出たら活用する。

## 高校の英語

- [ ] **【今すぐ】**自分の単元を、「コミュニケーション活動」（目的・場面・状況に応じて理解・表現・伝え合う）と「それを支える活動」（語彙や文法を理解し使う）に分けて見直し、両者を行き来する流れになっているか確かめる。
- [ ] **【今すぐ】**単元の初めに「コミュニケーションを行う目的・場面・状況」を具体的に設定して生徒と共有する（例：日本に来たことがない海外の生徒に、住んでいる町の食べ物を紹介する）。
- [ ] **【今すぐ】**同じ表現でも場面によって意図が変わることを意識させる（例：Can you 〜? が質問にも依頼にも誘いにもなる）。似た意味の既習表現を整理して使えるようにする。
- [ ] **【今すぐ】**導入したばかりの語彙や文法をすぐ話せる・書けることを求めず、聞く・読むで理解する段階から話す・書く段階へ進める計画にする。
- [ ] **【今すぐ】**自分のこと・地域のこと・日本のこと・自分の意見を伝える活動を単元に入れる（例：地域のおすすめの場所を留学生に紹介、校則について意見を発表）。
- [ ] **【今すぐ】**家庭学習の課題を見直し、単純な英作文などAI翻訳を出せば済むような課題になっていないか確かめる。
- [ ] **【今すぐ】**授業でAIを使う場合は、例文の生成などに使っても出力を鵜呑みにさせず吟味させ、最後は人間同士のやり取りにつなげる設計にする。使う前に、学校・教育委員会が認めた環境かどうか、利用規約・年齢制限・必要な保護者の同意を確かめ、氏名や写真などの個人情報は入力させない。
- [ ] **【今すぐ】**英語の学び方（学習方略）を授業で指導し、生徒が家庭学習でも自分で学習を調整できるようにする。高3の6割が学習方法が分からないという調査結果がある。
- [ ] **【今すぐ】**入学初期に生徒の学習状況を把握し、中学校の既習事項を繰り返し使いながら思考・判断・表現を発揮する活動を組む。
- [ ] **【今すぐ】**論理・表現の授業が文法解説と問題演習中心になっていないか見直し、スピーチ・ディベート等で英語を使う機会を増やす。
- [ ] **【今すぐ】**英コミュで読んだ・聞いた話題や言語材料を、論理・表現でも使うよう、担当者同士で年間計画をすり合わせる（科目間のカリキュラム・マネジメント）。
- [ ] **【今すぐ】**英コミュで、読んだり聞いたりしたことを基に話す・書く領域統合の活動を増やす。
- [ ] **【全面実施まで】**英コミュ（発信）（仮称）に向けて、日常的な会話を続ける・発展させる指導、書くことのプロセス重視の指導、論理の構成・展開の指導を準備する。
- [ ] **【解説等の公表後】**履修免除（B2レベル相当以上などの要件）の対象外部試験や必要な級、振替科目は解説等で定まるので、公表されたら確認してから校内で実施できるか検討する。実施は学校の判断による選択肢。
- [ ] **【全面実施まで】**評価は5つの領域を「内容のまとまり」とし、単元の目標をそのまま評価規準にする形に移る方向なので、国の評価規準例が出たら単元計画の作り方を合わせる。
- [ ] **【今すぐ】**パフォーマンステストで知・技と思・判・表を同じ課題で見取る形を試す（引き続き可能とされている）。
- [ ] **【今すぐ】**ALTやオンラインでの海外校との交流など、人間同士のリアルなコミュニケーションの機会を単元に組み込む。
- [ ] **【今すぐ】**帰国生徒や外国につながる児童生徒の外国語の力を、授業で生かせるよう配慮する。

- [ ] **【全面実施まで】**国が行う大規模オンライン研修や、動画・資料、表現集が出たら活用する。

## 全教科共通

- [ ] **【全校種】**単元づくりの出発点が「教科書のどこまで進むか」から「どんな資質・能力をつけたいか（統合的な理解・総合的な発揮）」に変わる。今から、単元を通した本質的な問いや論述・レポートなどの課題を考える練習ができる。国は教科等ごとの単元構想の参考イメージを示す。
- [ ] **【全校種】**「統合的な理解・総合的な発揮」だけを取り出して評価規準を作る必要はない。ただし「A：十分満足」の判断などで踏まえるので、評価と無関係ではない。
- [ ] **【小・中】**学年は「◯学年相当」の示し方になり、「上の学年の内容は扱ってはいけない」「習っていない漢字は使ってはいけない」といった運用は見直しの方向。相当学年外で扱う際の留意点は総則に書かれる。
- [ ] **【小・中】**令和10年度からの先行実施期間に調整授業時数制度を使えるようにする方向。研究・研修等枠を使えば週1コマ程度、教育課程の時間を使って組織的な研究・研修ができる。活用する学校はウェブでの公表や教育課程編成届への記載が求められる。
- [ ] **【小・中】**改訂を待たずに、標準を大きく上回る予備時数の見直しや、40週を前提にした週28コマへの平準化が国から促されている。年度途中に時数を見直すことも想定されている。
- [ ] **【全校種】**「主体的に学習に取り組む態度」のABC評価のために、ノート提出回数などの材料を集める作業はなくなる方向。学びに向かう力は総合所見での個人内評価と、思・判・表への「◯」の付記に変わる。単元ごとの◯付けは求められない。
- [ ] **【全校種】**各学校で「内容のまとまりごとの評価規準」を作る作業は不要になる方向で、単元の目標をそのまま評価規準にできる。評定へのまとめは学年末だけでもよいことが明確にされ、学期中は形成的評価（途中でのフィードバック）に力を注げる。
- [ ] **【全校種】**思考・判断・表現の評価は、ペーパーテストや業者の単元テストに偏らず、論述・レポート・口頭試問・プレゼン・作品制作などを核にする方向。AIに頼った成果物への対策として、口頭試問やブラウザ閲覧を制限するソフトの活用例も示されている。
- [ ] **【小】**総合的な探究の時間に「情報の領域」が加わる方向で、令和10年度から段階的な先行実施が想定されている。国が授業でそのまま使える授業動画を含む教材を開発し、研修も充実させる。国語の小3タイピングは情報へ移す方向。
- [ ] **【中】**技術・家庭科が分かれ、家庭科は独立教科、技術分野は「情報・技術科」になる方向（審議まとめの提案）。令和11年度から段階的な先行実施が想定され、技術科の免許所有状況の改善（全国規模の免許法認定講習）や全担当教員への研修が予定されている。
- [ ] **【高】**1単位17コマの新単位、科目の組替え、必履修科目の減単拡大、週30コマ標準の廃止などが提案されており、実現すれば学校独自の教育課程の幅が大きく広がる。先行実施は令和11年度か12年度（具体の年度は今後決定）、令和10年度から高校版サキドリ研究校。活用状況はカリキュラム・ポリシーの一環としてウェブで公表する。
- [ ] **【高】**英語と数学の外部試験で十分な力がある生徒について、学校が実施可能な場合に必履修科目を免除して上位科目等に振り替えられる仕組みが提案された。英語はCEFR B2相当以上が基準として考えられるとされ、対象の試験や数学の級などは今後解説等で決める。必ず免除しなければならない仕組みではない。

- [ ] **【高】**数学Ⅰの学習内容に「社会を読み解く数学」「数学ガイダンス」を加えて最大8新単位程度とし、数学A・B・Cは一つの新選択科目にする案。国語・英語も科目名や構成が変わる方向（新しい科目名はいずれも仮称）。

- [ ] **【全校種】**学習の自己調整や学習方略の指導が重視され、一律の宿題から、子供が家庭学習の内容を自分で決められるよう段階的に指導する方向が示された。国が具体的な指導資料を出して支える。

- [ ] **【全校種】**特別活動では、校則を含む学校生活の課題を話し合い、納得解・暫定解をつくる活動や、児童会・生徒会の提案・意見表明、学校行事の企画・運営を子供が担うことが位置付けられる。キャリア・パスポートは例示資料が廃止され、学校による引継ぎは求められない。

- [ ] **【全校種】**総合では、テーマ探究とマイ探究をバランスよく組み合わせ、研究系・行動系に加え創作系の探究も認められる。小中の名称は「総合的な探究の時間」に。外部に協力を求めるときの留意事項も国が示す。

- [ ] **【全校種】**カリキュラム・マネジメントは単元配列表づくりが目的ではなく、「ねらいの明確化→編成・実施・調整→評価・改善」の3ステップ。形骸化した取組を見直すことも重視され、そのための協議時間に裁量的な時間を使うこともできる。

- [ ] **【全校種】**道徳は一つの教材を複数コマで扱う教科書構成や、チームで行う道徳授業の推進が打ち出されている。読み物教材の数は精選され「深める教材」が展開される。

- [ ] **【中】**高校入試で、個別の知識の暗記ではなく概念の本質的理解や思考力を問う出題を充実させる方向。教科書を網羅的に教えなければという意識の背景の一つとされた入試の在り方が見直される。

- [ ] **【小・中】**教育支援センター等に通う不登校の子について、特別の教育課程を組める制度が新設され、令和10年度からの先行実施期間から取り組めるようにする方向。在籍学年の基準で「1」や「一」がつきやすい現状の改善がねらい。

- [ ] **【全校種】**教科書は精選され、教科書「を」全部教える前提が見直される。調整授業時数で時数を減らしても内容をおおむね扱える分量を目指し、指導書でも問いや評価課題、学習過程の構造が示される方向。

---

出典：中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省資料。告示前の方向性で、今後変わることがあります。｜原田英語.com 次期指導要領ナビ https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/（2026年11月4日 版）